

# 妊孕性温存について

## ■ 妊孕性温存とは

妊孕性温存とは、がん治療などによって将来の妊娠・出産に影響が出る可能性がある場合に、将来の選択肢を残すために行う医療のことです。治療開始前に検討することが重要です。

## ■ どのような方が対象となるか

- 将来、妊娠・出産を希望する可能性がある方
  - 抗がん剤治療や放射線治療、手術などを予定している方
- ※年齢や婚姻状況に関わらず、説明の対象となります。

## ■ がん治療と妊孕性の関係

以下の治療は妊孕性に影響を与える可能性があります。

- 抗がん剤治療
- 骨盤への放射線治療
- 卵巣・精巣、子宮に関わる手術

影響の程度は年齢や治療内容によって異なります。

## ■ 当院での対応

当院では妊孕性温存治療は実施していませんが、以下の支援を行っています。

- 治療開始前からの情報提供
- 意思決定支援
- 婦人科医師との連携による専門的説明
- 生殖医療機関への紹介および連携

また、必要に応じて AYA 世代支援チームと連携し、生活面も含めた支援を行います。ご相談ください。

## ■ 妊孕性温存の主な方法

- 卵子・精子の凍結保存
- 受精卵（胚）の凍結保存
- 卵巣組織の凍結保存 など

※詳細は紹介先医療機関で説明されます。

[がん治療と妊孕性の温存について（愛知県ホームページ）](#)

## ■ 費用・助成制度について

妊孕性温存治療には費用がかかりますが、助成制度が利用できる場合があります。当院では、愛知県の助成制度に関する情報提供および相談支援を行っています。

[愛知県がん患者妊孕性温存治療助成事業（愛知県ホームページ）](#)

## ■ ご相談について

妊孕性について不安や疑問がある場合は、治療開始前の早い段階でのご相談が重要です。

主治医または医療スタッフへお気軽にお声かけください。

また、がん総合診療センターでもご相談を受け付けております（当院を受診されていない方からのご相談も可能です）。